

驚異の三人!!

Three Masters of Contemporary Art:

高松次郎

TAKAMATSU Jiro,

若林奮

WAKABAYASHI Isamu, and

李禹煥

LEE Ufan

版という場所で

2020年

4・18 [土] - 6・7 [日]

世田谷美術館

Setagaya Art Museum

\*会期中一部展示替えを行います。前期 4月18日(土)

15月10日(日)、後期 5月12日(火) - 6月7日(日)

主催 世田谷美術館(公益財団法人せたがや文化財団)、

読売新聞社、美術館連絡協議会

後援 世田谷区、世田谷区教育委員会

協賛 ライオン、大日本印刷、

損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網

協力 シロタ画廊、Yumiko Chiba Associates、

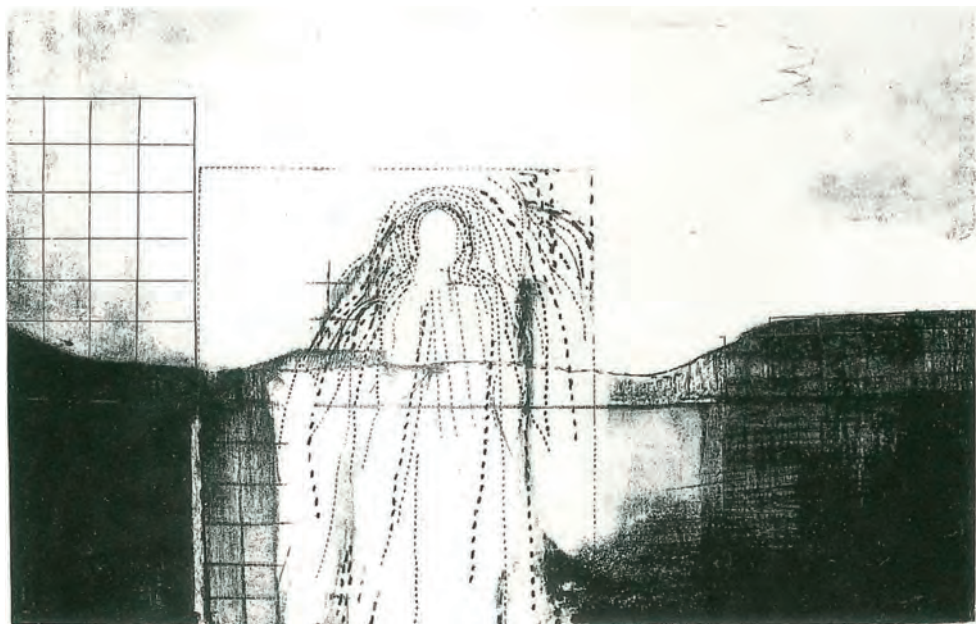
WAKABAYASHI STUDIO

開館時間 午前10時 - 午後6時

(入場は午後5時30分まで)

休館日 毎週月曜日 \*ただし、5月4日(月・祝)

は休館。5月7日(木)は休館。



① 若林奮、《21, 34—Valence-7》、1975年、リトグラフ、WAKABAYASHI STUDIO蔵 ©WAKABAYASHI STUDIO

プレスリリース



② 李禹煥、《Dialogue 2019 1》、2019年、木版、シロタ画廊蔵  
©LEE Ufan, Courtesy of Shirota Gallery



③ 高松次郎、《アンドロメダA-1》、1989年、スクリーンプリント、The Estate of  
Jiro Takamatsu蔵 ©The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

驚異の三人!!

Three Masters of Contemporary Art:

高松次郎

TAKAMATSU Jiro,

若林奮

WAKABAYASHI Isamu, and

李禹煥

LEE Ufan

版という場所で

- ◎ 日本の現代美術の巨匠三人による版画展
- ◎ 高松次郎の版画をまとめて鑑賞する初の機会
- ◎ 若林奮の彫刻と版画の関係を探る
- ◎ 昨秋に発表された李禹煥の新作版画も展示
- ◎ アーティストとプリンターのコラボレーションから生まれる版画の魅力に迫ります。

## 展覧会について

日本の現代美術を語るうえで常に重要な位置を占める、高松次郎（1936-1998）、若林奮（1936-2003）、李禹煥（1936- ）。三人とも立体と平面という境界を跨いで旺盛に作品を制作・発表しています。そのなかでも、1970年代以降、積極的に「版」による表現に取り組んでいることは注目に値するでしょう。

高松次郎は1980年代末にスクリーンプリントによる連作に取り組みました。版の重ね合わせやインクの色を変え、そこから生まれる形を確認していく作業は、同時期の油彩作品の制作と関連したものと見ることができます。若林奮は金属による彫刻とともに版画も数多く制作してきました。そのなかには、彫刻作品の一部分である線刻を施した銅板を版画作品の版としたものもあり、従来からの版画という枠組みにとらわれずに制作していたことが窺えます。李禹煥は今なお継続的に版画を手掛けて発表しています。絵画よりも自分と距離を置くことができ、他者性が入るメディアである版画を中間項と考え、そこで試みたものを絵画に移そうとしている——とも語っています。

このように見ていくと、それぞれが「版」を媒介とすることで、制作についての思索を深化させていったともいえるかもしれません。三人の創造の軌跡を再考する機会ともなる「版」の世界を、お楽しみください。

## 開催概要

展覧会名	驚異の三人!! 高松次郎・若林奮・李禹煥——版という場所で Three Masters of Contemporary Art : TAKAMATSU Jiro, WAKABAYASHI Isamu, and LEE Ufan
会期	2020年4月18日[土]—6月7日[日] ※会期中一部展示替えを行います。 前期=4月18日[土]—5月10日[日]、後期=5月12日[火]—6月7日[日]
会場	世田谷美術館 Setagaya Art Museum 〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2 Tel. 03-3415-6011(代表) www.setagayaartmuseum.or.jp
主催	世田谷美術館（公益財団法人せたがや文化財団）、読売新聞社、美術館連絡協議会
後援	世田谷区、世田谷区教育委員会
協賛	ライオン、大日本印刷、損保ジャパン日本興亜、日本テレビ放送網
協力	シロタ画廊、Yumiko Chiba Associates、WAKABAYASHI STUDIO
開館時間	午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）
休館日	毎週月曜日 ※ただし、5月4日[月・祝]は開館、5月7日[木]は休館。
観覧料	一般1000（800）円、65歳以上800（600）円、大高生800（600）円、中小生500（300）円 *（ ）内は20名以上の団体料金。*障害者の方は500円。ただし、小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者（当該障害者1名につき1名）は無料。 *リピーター割引=会期中、本展有料チケットの半券をご提示いただくと、2回目以降は団体料金にてご覧いただけます。
展覧会のご案内	050-5541-8600（ハローダイヤル）

オープニング・レセプション 2020年4月17日[金] 午後4時～午後6時

驚異の三人!!  
Three Masters of Contemporary Art:  
高松次郎  
TAKAMATSU Jiro,  
若林奮  
WAKABAYASHI Isamu, and  
李禹煥  
LEE Ufan  
版という場所で

## 高松次郎 TAKAMATSU Jiro (1936-1998)

高松次郎は、1963年に赤瀬川原平、中西夏之とともにハイ・レッド・センターを結成し、いちやく前衛美術界の寵児となりました。この翌年より発表された〈影〉のシリーズは、その前に立つ人にももの存在を問い続け、現在も多くの人々を魅了しています。70年代に入ると言葉や数字を使い、概念芸術の傾向を強めつつ、次第に絵画（抽象絵画）作品も制作するようになりました。

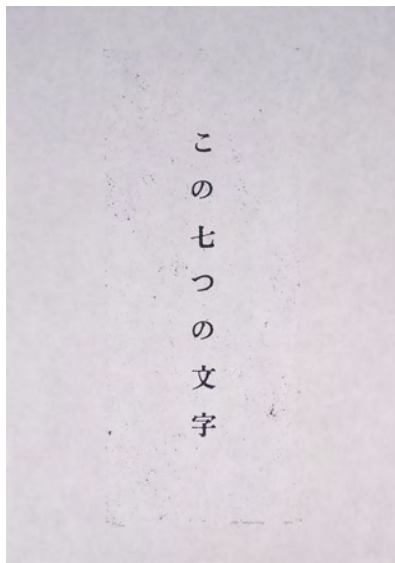
そのなかでシルクスクリーンによる版画集『國生み』と『水仙月の四日』に取り組みます。見えない線を引き、インクの色を選び、版を重ねて画面を成立させる。これは自らの絵画制作を版画というメディアによって再確認するかのような行為だったといえるでしょう。この延長線上に4シリーズ全22点からなる版画集『アンドロメダ』が生まれました。本展では、1960年の木版作品から『アンドロメダ』まで、高松の版画作品の全貌をご紹介します。

### 主な出品作品



④

④高松次郎、《無題》、1960年、木版、The Estate of Jiro Takamatsu 蔵



⑤

⑤高松次郎、《日本語の文字》、1970年、オフセットリトグラフ、The Estate of Jiro Takamatsu 蔵



⑥

⑥高松次郎、《國生み（古事記、日本書記より） 火の誕生》、1984年、シルクスクリーン、三鷹市美術ギャラリー蔵

© The Estate of Jiro Takamatsu, Courtesy of Yumiko Chiba Associates

驚異の三人!!

Three Masters of Contemporary Art:

高松次郎

TAKAMATSU Jiro,

若林奮

WAKABAYASHI Isamu, and

李禹煥

LEE Ufan

版という場所で

## 若林奮 WAKABAYASHI Isamu (1936-2003)

1960年代より金属彫刻で注目を浴び、亡くなるまで高い評価を受け続けた若林奮も、早い時期から版画作品を制作していました。一時期は「人に見せることを前提にしないノートのような役割」で制作していたとも語っていますが、いま振り返ると、絶え間なく銅板に向き合い線描を刻んでいたことがわかります。そして、彫刻作品に見られる形体や空間への考察、それらの詩的とも呼べる結びつきは、版画作品の画面にもよく表されています。

若林の版に対する興味は、次第に彫刻と版画との境界を消していったしまったようです。銅板に熱を加え変形させた、通常の版画として不向きなものをあえて版にして刷ってみたり、彫刻作品の一部を刷ることも試みています。本展では、パリ留学中のリトグラフから52点組の版画集や大判の銅版画の作品まで、若林によるバリエーション豊かな版画の世界をご紹介します。

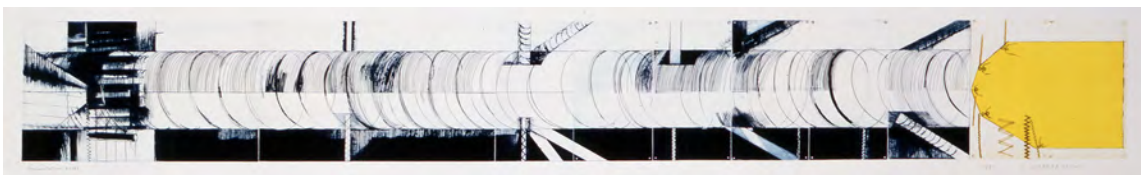
### 主な出品作品



⑧



⑨



⑦

⑦若林奮、《鮭の振動尺 I -A》、1978年、ドライポイント・エングレーヴィング、WAKABAYASHI STUDIO 蔵

⑧若林奮、《52記 -22》、1995年、エッチング・エングレーヴィング、WAKABAYASHI STUDIO 蔵

⑨若林奮、《SEVERAL STRATUMS-1》、1991年、エッチング・アクアチント、WAKABAYASHI STUDIO 蔵

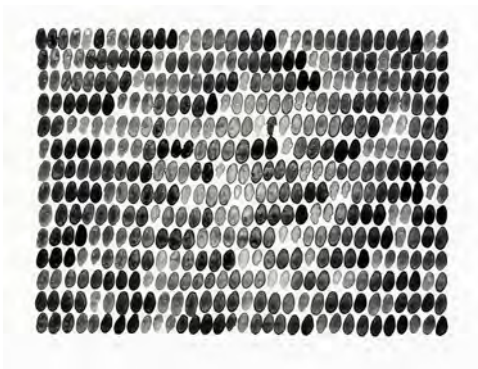
©WAKABAYASHI STUDIO

驚異の三人!!  
Three Masters of Contemporary Art:  
高松次郎  
TAKAMATSU Jiro,  
若林奮  
WAKABASHI Isamu, and  
李禹煥  
LEE Ufan  
版という場所で

## 李禹煥 LEE Ufan (1936- )

世界各地で大規模な個展を開催し続けている李禹煥。1960年代末より「もの派」の最重要人物として彫刻作品、絵画作品を発表してきましたが、その活動の初期より継続的に版画作品も制作しています。それもステンシル、木版、リトグラフ、シルクスクリーン、ドライポイントなど各種の技法を手掛けてきました。李は版画について、すでに頭のなかにあるイメージを紙に移し替えることではなく、第三者として存在する版と向き合うことで起きる自分の反応が重要だ、と語っています。版画によって学んだものを絵画に生かしているともいう、李の制作活動の全体を見ていくと、絵画や彫刻と版画の間に往還があるようです。解き墨やカーボランダムなど、絵画作品にはない表現に向き合っていることから、版画は重要な実験と検証の場だといえるでしょう。本展では最初期のステンシルによる作品から、昨秋発表された100号サイズの木版まで、李の版画の軌跡をご紹介します。

### 主な出品作品



⑩



⑪



⑫

⑩李禹煥、《点より1》、1977年、リトグラフ、東京都現代美術館蔵

⑪李禹煥、《島より8》、1989年、カーボランダム・ドライポイント・リトグラフ、東京オペラシティアートギャラリー蔵

⑫李禹煥、《出港地A》、1991年、リトグラフ、三鷹市美術ギャラリー蔵

©LEE Ufan

## 関連企画

### ◎対談 李禹煥（美術家）× 酒井忠康（世田谷美術館館長）

世界各国で大規模な個展を開催し続けている李禹煥氏に、近年の活動や考えていることについてお話しいただきます。

日時：2020年4月18日（土）午後2時～午後3時30分（開場は午後1時30分） 会場：当館講堂

定員：当日先着140名 ※当日午後1時よりエントランス・ホールにて整理券を配布。参加費：無料 手話通訳つき

### ◎講演会「著作を読む」

三人の作家それぞれが書き記した言葉を追いつつ、作品に込められた創作の思考を読み解いていきます。

第1回：李禹煥を読む

講師：三本松倫代（神奈川県立近代美術館学芸員） 日時：2020年5月17日（日）午後3時～午後4時30分

第2回：若林奮を読む

講師：山田志麻子（うらわ美術館学芸員） 日時：2020年5月24日（日）午後3時～午後4時30分

第3回：高松次郎を読む

講師：神山亮子（府中市美術館学芸員） 日時：2020年5月31日（日）午後3時～午後4時30分

会場：当館講堂 参加費：無料 手話通訳つき

定員：当日先着140名 ※当日午後1時よりエントランス・ホールにて整理券を配布。開場は午後2時30分

### ◎100円ワークショップ

どなたでもその場で気軽に参加できる工作など。

日時：会期中の毎土曜日 午後1時～3時 会場：当館地下創作室 参加方法：時間中随時受付 参加費：1回100円

他にも鑑賞ワークショップを予定しております。詳細はお問合せいただくか、当館HPをご覧ください。

---

### 同時開催：

ミュージアムコレクションⅠ 「気になる、こんどの收藏品——作品がつれてきた物語」

2020年4月25日（土）～6月14日（日）

### 次回展覧会：

「ミュージアムコレクション特別篇 グローバル化時代の現代美術——“セタビ”のコレクションで楽しむ世界旅行」

2020年7月4日（土）～8月16日（日）

---

### お問い合わせ：

世田谷美術館 Setagaya Art Museum

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園 1-2

Tel.03-3415-6011(代表)

※開館日の午前10時から午後6時まで

Fax. 03-3415-6413

[www.setagayaartmuseum.or.jp](http://www.setagayaartmuseum.or.jp)

### 交通案内：

- ・東急田園都市線「用賀」駅下車、北口から徒歩17分。  
または美術館行バス「美術館」下車徒歩3分
- ・小田急線「成城学園前」駅下車、南口から渋谷駅行バス「砧町」下車徒歩10分
- ・小田急線「千歳船橋」駅から田園調布駅行バス「美術館入口」下車徒歩5分
- ・来館者専用駐車場（60台、無料）：東名高速道路高架下、厚木方面側道400m先。美術館まで徒歩5分

---

展覧会のご案内：050-5541-8600（ハローダイヤル）